



生きる！



魂のつながり

なんでん屋



生きる！

魂のつながり



目次

チャクラは8つある

自分専用チャクラ

チャクラは意思疎通の場所

スープを飲む

聖杯を飲む

スープを飲まない場合

浮遊霊として生存

浮遊霊は、生者に移り移る

チャクラへ出入り

意志決定は自分か否か

邪心と良心の戦い

縁の結びつき

欲望の結びつき

善霊との結びつき

ブツダのことばから

新たな発見、これも事実

善霊同士の結びつき。

お互いをいたわる。

前向きに関与。

生活習慣と情報にて、霊は交代する。

一对の善霊は変わらない。

善霊をいたわれれば、成就できる。

悪霊はジャマをする。

ようやく理解できた。

生者と死者の関わり。

スープを飲んだ死者は？

天界の仕事につく。

仕事の内容は、依然知らされていない。

チャクラは8つある

チャクラは、サンスクリット語で「円、車輪」を表す。

通常チャクラは、7つあるとされているが、正式な答えはない。

チャクラには、体を支配する何かがあるとされる。

チャクラとは言わないが、体を支配する心があると見ても良いだろう。

ここからが本題なのだが、人間は霊体によって支配されている。

人間には、体と霊体が存在し、自分の思いどおりに動かしている。

霊体が体から離れれば、死という瞬間を迎える。

ではなぜ、いつも体から霊体が離れないかというと、チャクラと呼ばれる穴にしっかりと収まっているのだと言えないだろうか。

体のエネルギーが充満していれば、霊体はしっかりつながっており、離れることはない。

しかし、体のエネルギーが弱まると、霊体は体から離れてしまう。そう考えられないだろうか。

その穴が、チャクラなのかもしれない。

でもチャクラは、7つあるとされる。

他のチャクラは、何をしているのだろうと考えた。

ここに、他の霊体が入ってくる可能性がある。

仮住まいされる状態であるが、本人の霊体は依然居座ったまま。

このチャクラに、1体居座ってしまえば、そこには別の人格体が現れる。

そうすると、良心と邪心の心が同居してしまうのではないかと、推測する。

聖徳太子は、同時に何人もの話を聞くことが出来たという。

また、聖徳太子は予言者の顔も持っていたと推測する。

だから、他のチャクラに入った霊体の言葉を同時に聞くことが出来たのではないだろうか？

一度だけだが、同時に複数の声が聞こえたことがある。

もうダメだと判断し、ブロック塀に頭を打ち付けたことがある。

そのときから、同時に7人の声が聞こえることもあるのだと納得した。

そういうことで、チャクラは8つあるのではないかと考えるに至った。

自分専用チャクラ

自分の霊体が居座っているチャクラは、どの部分だろうか？
通常は、心臓や眉間と考えるはず。

しかし、心臓や眉間に障害がある人も、普通に生きている。
恥部であろうか？

恥部だと、頻繁にエッチになりやすい。

そうすると、喉の部分ではないかと推測する。

ここは、自分の意思を言葉で発する、重要な箇所。

ここしかないと思う。

江戸時代の切腹のシーンを思い出していただきたい。

自分で腹を切るが、必ず介添人が首を落とす。

この首を落とす行為が、命が絶たれる瞬間だと考えていいだろう。

そうなる、生命の源は首、喉、延髄にあると考えられる。首が折れると命を失う。

これも、例外はないから、間違いないと思う。

夏は、熱中症になりやすい。

頭に日差しが当たっていない屋内でも、熱中症になる人がいる。

戦争中、日本陸軍は帽子の後ろにホ口をかけていた。

野外で仕事する人は、首にタオルを巻いている。

どちらも、後頭部の首を日差しから守っている。

よって、ここにチャクラがあるとみた。

顔を洗うより、首まわりを濡れタオルで拭いた方が、気持ちが良い。そんな感じだろう。

女性の正面の顔より、首のうなじを見る方が魅力を感じやすい。実は、女性の内面が、うなじから見えているのだと思う。だから、女性的な人は髪が長いのだ。自分を積極的に見せていない。また、見せたくない奥底の感情があるのだろう。

チャクラは意思疎通の場所

ゼロチャクラは、延髄にあるとしましょう。

第一チャクラから、第七チャクラは一般論にしたがいます。場所は、検索して調べてください。

各チャクラは、生命、感情、理性などを司っていると書いてあります。

人間にとっては、重要な部分です。

仮に誰かが、あなたを操作しようとする、このチャクラの部分を攻めてきま
す。

生きている人間には見えません。

特殊な能力、もしくは死んでしまった人なら、エネルギースポットがわかるは
ずです。

死んでしまった人は、エネルギー体ですから見えてもおおしくはありません。

仮に、死んでしまった父親は、息子娘のこのエネルギースポットに呼びかける
と考えられます。

もしくは、ここに乗り移るかもしれません。

となると、ここはエネルギー体が自由に行き来できるスポットとなり得ます。

良い意味でいえば、善霊により神様の声が聞こえたり、今しがたなくなった祖母の声が聞こえる。

悪い意味では、悪霊に取り憑かれたり、エクソシスト状態になることです。

生きている人は、死んでしまいますから、乗り移れません。

となると、死者が自由に行き来していると考えられます。

なぜそうなるのかはわかりませんが、子孫繁栄のためと考えられます。

動物の赤ちゃんは、生まれてすぐ、自分で立ち、お乳を飲みます。

赤ちゃんに、生まれる前の記憶はありません。

動物の赤ちゃんを立たせる行為を、死んだ先祖の誰かが、直接体を動かし、お乳を飲ませるまで、操作していると考えられます。

その赤ちゃんを動かしているチャクラの操作を、我々は「本能」と呼んでいるのではないのでしょうか？

なぜ、蚊は人の血を吸うのでしょうか。

記憶がなければ、鉄の柱にしがみつき、必死で吸おうとします。

また、人や動物に近づくこともありません。

誰かが、教えているのだと思えてしまうのですが、どうでしょう。

本能イコール何者かの指示と言えないでしょうか？

スープを飲む

森田健の著作には、スープを飲むと生前の記憶がなくなってしまうと書いてあります。

スープを飲まなかった場合、生まれ変わった人に生前の記憶が蘇るそうです。

著作の「生まれ変わりの村」には、言い伝えとしてスープを飲むと記憶がなくなってしまうと教えられてきました。

この村の人は、その言い伝えを覚えているので、死んでしまってもスープを飲まない人が多いようです。

この話に嘘は無いと思います。

小さいときからそう教えられていれば、死んでからも覚えていきます。

ではなぜ、スープを飲むと記憶をなくしてしまうのか？

日本では、死ぬと必ず通るのが、三途の川です。

ここを越えると、もう現世に戻ってこられません。

外国でいえば、天国の門です。

その村では、スープを飲む行為が、三途の川・天国の門なのでしょう。

スープを飲む行為が、成仏なのかもしれません。

聖杯を飲む

キリスト教では、聖杯を飲む行為は、神の僕となりなさいということだと思っている。

また宗教含め、永遠の命を授かる行為と受け取れる。

これは、天国に行った際、聖杯を飲むことによって未来永劫の永遠の命を授かる行為、また意思表示しているのではないかと考えた。

天国へ行けば、神様のもと、神様のしもべとして天国で暮らしていいよという言葉い伝えがある。

その恩恵を現世の人が、聖杯伝説として受け継いできたのではないかと憶測す

る。

では、天国に行けば、聖杯を飲むことが出来るのだろうか。

そこで振り分けられる可能性もある。

また、自分の意志で飲まないかもしれない。

まるで、スープ伝説のよう。

私の場合は、

種銭持って、三途の川を渡り、えんま様のところで洗いざらい白状し、天国の門をくぐって、皆から辱めを受けて、聖杯を飲むという、ややこしい状況になりそうだ。

以前は、地獄でもいいかなと思っていたが、今のところ、先ほどの状況が最有

力候補だろう。

スープを飲まない場合

何らかの事情があるか、何も知らされていない場合、スープを飲まないと思う。スープを飲む飲まないにしろ、その前に振り分けがあるのではなかるうか。

生前お世話になった人が迎えに来ることもあるだろう。

かたや恨まれて罵倒を浴びせに来る輩もいるだろう。

それがなくとも、生前の悪い行いが全てばれて、その場にいられなくなるだろう。

これがえんま様の采配であり、自分で道を決めるのである。

成仏したくないか、それとも成仏するか。

その後、スーアの行為に及ぶのだと考える。

生まれ変わりの村の人は、その采配をうまくかいくぐっているので、スーアを飲まないで、現世に戻っているのだろう。

三途の川を渡らないで、うろろろしているようなもの。

肉体がまだ存在すれば、生き返るだろう。

しかし、1ヶ月もたてば、もう肉体はない。

その間は、空いている体を探している状態。

まだ、個性のない赤ん坊にしか取り憑くしかないと思う。

怖い話だが、これもまた真実かもしれない。

生まれてくる赤ん坊の個性はどうなるのだ、といたい。

浮遊霊として生存

スーブのことはさておき、普通に霊を考える。

成仏しなかった霊は、地上界をさまようことになると思った。

突然ある場所にいると、気分が悪くなる。

心霊スポットに行くとも具合が悪くなることがある。

どちらもこの浮遊霊の仕業だといえないだろうか。

死ぬ前に、この地上界で悔いを残して死んでしまった人たち。

突然の事故や病気で亡くならなかった人たち。

このひとたちが、生きている人間をほおっておくはずはない。

何か成就したいことがあるはずだ。

生きている人たちのために、一生懸命応援するようなことはしないとと思う。

こういう霊を悪しき霊と呼ぼう。

生前は、決して悪い人ではなかった。

しかし、望みかなわなかった人、そういう霊があふれてしまっている。

こういう霊達が、生きている人の邪魔をし、不幸にさせている。

不幸にするつもりはないのだが、霊達の思い通りにその人は動かない。

また、生きている人から見れば、邪魔をされている。

この世は、悪しき霊がいっぱいいると聞いたことがある。

そういうことを言っていたのではなからうかと思う。

でもこれは、宗教的な悪しき霊のことを言っていて、一般人には当てはまらない。

金儲けのためなら違法行為、違法行為まがいを進める霊もいるだろう。

共存共栄している当人にとっては、神様な存在である。

世の中で成功するためには、悪しき霊の協力が必要なのだ。悪しき霊の協力無くして、一流にはなれない。

その代わり万事成功とは限らない。

身代わりとして、事故で死亡したり、ガンで死亡したり、人から裏切られ落ちぶれたり、借金で破産したり、犯罪者となって日の目を見なくなるようなことがある。

だから、総称して悪霊と呼ばれているのだと思います。

でも、悪しき霊は命を取るつもりで援助はしていない。

一番悪いのは、当の本人の考え方である。

途中で止めとけば良かったのに、調子扱いて続けた結果が、不幸となるのだ。

金儲け専門の霊は、健康にはうとい。

スーパーマンではないから、必ず障害が他に出てくる。

そこは、当の本人が気をつけなければいけないところである。

私に付いている霊は、命と体の健康に関しては超一流だが、金儲けには少し疎いのである。

まあいろいろと、他の霊も援助しているみたいらしい。

本人が鈍感なので、気づかないことも多い。

浮遊霊は、生者に乗り移る

浮遊霊が乗り移ると、何かの言動で突然怒り出したり、破壊したりする。

普段は怒らないようなことでも、何故か怒ってしまうことがある。

自分でも不思議に感じていると思う。

では、突然乗り移るかということでもない。
学校で乗り移られるかということ、それはない。

そうです。

普段から乗り移られているのです。

霊は嫌いな人と接すると、突然怒り出すのと同じです。

いつもあなたに付いているのです。

悪さをしない程度に！

いつもは感じません。

霊といえど動物ではなく人ですから、だますのは得意です。

言葉巧みに、おいしい情報を教え、油断させる作戦もあります。

相手は百戦錬磨ですから、かなうはずがありません。

おとなしい霊もいれば、恐喝する霊もいます。

そういうことで、私たちはいつも霊と一緒にだと思わなければなりません。そうです。

共存共栄です。

そう考えると納得することしかりです。

チャクラへ出入り

浮遊霊は、人の体に入り込む。

その場所は、チャクラではなかるうかと推測した。

しかし、チャクラは1カ所ではないようなので、1体だけとは限らない。

何体も生きている人に関与している可能性がある。

悪しき霊だけであれば、生きている人は相当悩むだろうが、そういう人はほと

んどいない。

たまに調子が悪くなってしまうことぐらいで、生きている人には違和感がない。

また、守護霊と呼ばれる霊達の存在を忘れていたので、書いてみる。

善なる霊を浮遊霊としてしまうと、イメージが違ってくる。

善なる霊は、いつも見守って欲しいと感じるだろう。

となれば、善なる霊はいつもチャクラにいるとは考えられない。

指導霊は、何らかの方法で人に忠告をしてくる存在だ。

じつは、浮遊霊と指導霊の間こえる声の場所は違っている。

今は覚えていないので、具体的にいえないが、悪しき霊との声質とか、頭のことあたりは善霊の声だとか、場所によって違っている。

普通の人には理解できない。

慣れなければ、区別が付かないのである。

これが、霊的な人とそうで無い人の差といえるだろう。だから、悪しき霊に操作され、悪行を繰り返す人も多いのである。霊的な人はさらに、だまされやすいのも事実。本当に区別が付かないのだ。

意志決定は自分か否か

普段の生活に霊が関与していることはわかったと思う。

では、意志決定は自分なのか、霊の責任なのかといわれると、自分の責任になる。

霊はあくまで教えているだけなので、その判断は自分にある。

間違った判断を選べば、不運に繋がる。

しかし、その後もフォローに入るので、大げさなことにはならなかったと思う。しかし、人生で大失敗したことや、どん底を味わった人がいるはずだ。

その時の意志決定する判断の材料は、ほとんどが知人、友人のアドバイスなのだ。

霊もそう申している。

けっして、おいしい話に乗らないこと。

悪い話にも乗らないこと。

これは、鉄則である。

なぜなら、その知人友人にとっては、自分の関連の霊が関与してくれたおかげで、もうけ話とかになったもの。

あなたは、その霊とは関係ないので、全く関与してくれない。

もしくは、正反対の最悪の状況に陥ることになる。

ですから、知人友人の話には絶対に乗らないこと。

その場合、一日待ってもらえばいい。

冷静な状況判断が出来るはずです。

また、あまりないことらしいが、霊によって思いどおりに行動させられることがあるらしい。

おそらく生命の危険が迫った場合だろう。

霊も一生懸命関与しているということだ。

四六時中見張っているわけではないので、ここぞというときだけだろう。

霊の関与が大きいと、性格も変わってしまう。

本人は変わっていないのだが、まわりは変わったように判断する。

話す言葉等の言動が、以前と違うため、そう見て取れるのだろう。

邪心と良心の戦い

先ほどの話は、善霊、もしくは守護霊の話である。

ここからが本題なのだが、邪心を持った霊に関与されるとどうなるか。

その邪心の関与する本人のために、身も心も捧げるようになる。

全くこちらとは関係ないのだ。

行動、時間、金銭、不動産など、自分が不利になる事柄ばかり捧げるようになる。

当然、有利になるのは、その霊が主に関与する本人のみ。

われわれは、不利になる。

国、会社、グループ、個人など、全てにこういう霊があるので、やっかいなのだ。

回避することは出来ない。

できるのは、個人が断り続けることだけだ。

当の本人には、神様だろうが、われわれにはあくまである。

これが、この世の中の不条理を生み出している。

これは、絶対覚えていて欲しい。

だから、われわれが変えていかなければいけないのだ。

その革命軍のリーダーになったとしよう。

あなたは、いろいろ行動をおこし、革命は成功したとする。

その瞬間、あなたは悪魔になるのである。

あなたの成功を好まない人が大勢いるからだ。

世の中、これの繰り返り返しである。

リーダーになると、それだけの負を背負うことを覚えていて欲しい。

これが、善霊からの助言である。

世の中、良心と邪心の戦いは四六時中ある。

では、霊がいなくなってしまうえば、平和な世の中が来ると思うだろう。

わたしは、そのときがノアの洪水・ソドムとゴモラの滅亡だと思う。

霊が関与しなければ、欲望三昧、酒池肉林を尽くすと思う。

誰も制御する霊や人がいなければ、人間は欲望三昧だろう。

そういうときに、イエスが2000年前に現れ、人々を諭したのだと思われる。

イエスが現れなければ、再びノアの洪水があったやもしれず。

ということ、良心と邪心の戦いは必要悪なのである。

縁の結びつき

霊が密接に関与しなければ、八方美人的になるだろう。

よい意味では、誰からも好かれる好男性・好女性になる。

趣味志向の霊的には、満足できるかもしれない。

しかし、人間関係に関しては、密接になれない。

お互いの霊がどう組み合わさってくるかはわからない。

個人の利権、もしくは霊的な利権が絡むと複雑怪奇となる。

しかし、利権を越えた何かを証にすると、お互いの霊の交流が始まる。

これが、友達であり、知人であると思う。

これは、本人が命令できるわけでもなく、本人の努力によるところが大きい。その努力により、霊が関与してくれるわけだ。

この方法は教えられていない。この方法は知っても、本人が直接できるわけでもなく、霊によるところが大きなのだ。

男女の出会いについて書いてみよう。

これには、稔密な計画があるらしい？

運命の出会いが、最初から計画されている。

われわれにはわからない。

だが、あるらしい。

しかし、われわれはほとんど恋愛関係を望んでいる。

その結果が、離婚なのだが・・・

まあこれはおいといて、次に行こう。

運命の出会いが仕組まれていることは述べた。

気になる人は、それがいつになるかだろう。

結論を言う。

もう既に動いている。

あなたの相手は、あなたが気になる人に似ている人だ。

そう、霊は教えている。

いかんせん、本人は別人である人をこともあろうに、好きになっている。

これが、恋愛の実態だ。

後は想像にお任せする！

欲望の結びつき

互いが望む欲望を満たしてくれる相手が見つかり、親密になる。

一般的には、ビジネスパートナーだ。

友人もそうだろう。

親友と思っている相手もそうだろう。

男女間もそうだろう。

お互い相手にメリットがある同士なら、霊も関与する。

ただ、欲望だけの相互関係なので、最後には別れる。

そこに、親友同士のような幻想を持ってはダメだ。

友達の彼氏を捕る。

友達を裏切る。

これらも含まれる。

だから、親友もビジネスパートナーだと思って欲しい。

お互いがビジネスパートナーだと思ってしまえば、裏切りはない。

親友、友人だと思ってしまふところに、本人の甘さがある。

世界の歴史は、裏切りの繰り返しだった。

それを踏まえて欲しいと、霊は言っている。

最近霊からの助言が多いので、こんな書き方になっている。

先輩の意見として聞いて欲しい。

「縁の結びつき」と「欲望の結びつき」の文章には、悪霊が絡んでいます。内容は合っているのですが、間違いはないのですが、強い主張が内容に含まれています。調子に乗るとこういうことになるので、気をつけてはいるのですが、まあ気にしないでください。

善霊との結びつき

影にかくれてコソコソと悪いことをしている人間に、あなたは助言できるだろうか？

霊もこういう人は放って置いている。

自分の孫ならば助言もするだろうが、度を過ぎれば見たくないのも本能だろう。だから、悪い考えを持っていると、善霊の後押しはない。

自分自身の力で乗り切るしかない。

では、善霊の結びつきを確固としたい時はどうするか。

悪いことを一切やめる。

自分が、これは悪いことだと考えることは、やらない。

考えない。

これによって、善霊は認めてくれるため、助言を始めてくる。

そうなれば、運は上昇する。

真面目に仕事や生活を一生懸命やっていたら、善霊は考えるだろう。

そろそろ、嫁さんを婿を迎えねばなるまいと。

あとは自然に縁を運んでくれる人たちと関わるようになる。

霊界と実世界で。

本人がこだわりを捨てれば、そこにえにし（縁）が実を結ぶ。

おそらく、そういう風になっているのだと、今は確信できる。

性格の良い人は、どんどん人の輪ができる。

性格が偏っている人には、人は集まらない。

これも、実世界で経験しているはずである。

ブツダのことばから

えさで太った大豚のように、惰眠をむさぼり、がつつ食べて、ごろごろ転げて眠りこける大馬鹿者は、何度も何度も母胎に入って「輪廻を繰り返す」(325)

なんか生まれ変わりの村のことを言っているようで、まさしくその通り。気になったので、書いておく。

こういう愚か者は、霊界には来るなど言っているようにも聞こえる。

ということは、生まれ変わりもあるということだろう。

新たな発見、これも事実

この世では、死んでからが地獄になる。

いわゆる、あの世が地獄！

あの世では、生き返ることが地獄になる。

いわゆる、この世が地獄！

どちらもその対象者（一部の悪霊には）は、あの世もこの世も地獄と化する。
永遠に安らぎは無い。

終わりも無い！

自分の心だけが知っている。